

## SY4-3

## 小児歯科の観点から一口腔機能の発達に寄り添うこどもまんなかの食の進め方—

船山ひろみ

鶴見大学 歯学部 小児歯科学講座

小児の口腔機能は、出生直後の哺乳反射に始まり、離乳期からの摂食機能の獲得を通して、構音機能やコミュニケーション能力の発達とともに多様な機能が成熟していきます。口腔機能の発達は、小児の身体的成長や精神的発達とも密接に関連しており、近年、その重要性が一層認識されるようになっていきます。従来、食の進め方は月齢や年齢に基づく発育評価が中心でした。しかし、乳幼児期の発達には個人差が大きく、一律の基準ではすべての子どもに適した食事支援が提供できるとは限りません。日本小児歯科学会が2018年に実施した調査では、日本人の乳歯萌出時期は個人差が大きく、さらにその個人差が1988年の調査結果と比較して拡大していることが報告されています。このような背景を踏まえ、私たちは年齢や歯の萌出時期に応じた口腔機能の発達と、それに適した調理形態を整理し、離乳食から幼児食、さらには大人の食事へと円滑に移行できるよう、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」に「乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方」のチャートを収載しました。このチャートは、幼児期の食事支援を目的としつつも、離乳期からのスムーズな移行を視野に入れた内容となっています。近年、保護者の間では子どもの偏食に関する悩みが増えています。その一因として、口腔機能の発達が十分でないために食べにくさを感じている可能性が考えられます。例えば、乳歯や永久歯の萌出状況、咬合の状態によっては、特定の食材を噛み切ることや咀嚼することが難しい場合があります。したがって、小児の口腔機能に適した調理形態を選ぶことが重要です。また、無理に苦手な食材を摂取させると、丸飲みや詰め込みといった不適切な食行動を引き起こす可能性があるため、支援ガイドを活用しながら慎重に対応することが望まれます。ただし、「何歳までにこれを食べられるように」といった固定的な見方を避け、発達の個人差を考慮した柔軟な支援が求められます。本講演では、小児歯科の視点を踏まえ、口腔機能の発達を考慮した乳幼児期の食生活支援について、チャートを用いて解説いたします。発達段階に応じた食事や歯科保健の内容に加え、食に影響を及ぼす口腔習癖についても紹介させていただきます。本シンポジウムが、多職種が連携し、「こどもまんなか」に据えた食生活支援の重要性を共有し、具体的な実践方法を考える機会となれば幸いです。

## SY4-4

## 保育・幼児教育施設におけるこどもまんなかの食生活支援

鈴木美枝子

玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科

2022年にこども基本法が成立し、2023年4月にはこども家庭庁が創設され、こどもまんなか社会の実現のためにさまざまな取り組みがなされています。同年12月には「はじめの100か月の育ちビジョン」が策定され、乳幼児の思いや願いが受け止められる社会、安心してこどもの笑顔や成長を喜び合うことができる社会を、全ての人とともにつくっていくことが政府の責務であることが掲げられています。そのような中、生きる源ともいえる食に対するこどもへの支援はどのように進めていけばよいでしょうか。本シンポジウムの副題にある支援ガイドは、こども家庭庁創設前の2022年3月に作成されましたが、まさに幼児期の子どもが食べる力を育むために、保健医療従事者や児童福祉関係者等が、幼児期の栄養・食生活支援を効果的に展開していくうえで共有すべき基本的事項や支援の方向性を提示することをねらいとしています。多職種・多分野からの知見が包含されているこの支援ガイドをもとに、子どもの食を支援する各職種が、こどもをまんなかにして同じ方向を向いて食生活支援をしていくことの大切さについて改めて考えてみたいと思います。支援ガイドには、保育・幼児教育施設等における食生活支援の好事例が、資料2のQ&A、事例、コラム等に掲載されています。保育・幼児教育の間では、食事を一つの「点」として捉えるのではなく、生活の流れの中に食事があるという視点で子どもと関わる姿が多く見受けられます。子どもの食へのアプローチも食事場面だけでなく、子どもの生活の中から好きなものや遊びなどと連関させ、周囲の大人や子どもとの関係性、周囲の環境の作り方などにも配慮しています。「目の前の子どもはどう感じているか」という視点を大切に子どもと向き合う様子は「こどもまんなかの食生活支援」のあり方にも大きな示唆を与えているように思います。本講演では、保育・幼児教育施設等で子どもの声や気持ちを大切にしながら食生活支援をしている事例を紹介し、子どもの心が動いて子ども自身が前向きに楽しく食に向かう姿を通して「こどもまんなかの食生活支援」をするための大切な視点について考える機会にできれば幸いです。